

# 平成20年度 南丹市事業評価表 (平成19年度 実施事業)

事業CD. 5119 事業名: 畜産支援事業  
 細事業名: \_\_\_\_\_

政策体系上の位置付け (参考)  平成20年度～ 総合振興計画実施事業

政 策 : 第2章 自然・文化・人を活かした郷を創る  
 基本施策 : 3 南丹ブランドの「ほんまもん」をつくる  
 主な施策 : (3) 農業

所管部署名  
 部局名 : 農林商工部  
 課 名 : 農政課

科目CD. 1060104 作成日 平成20年10月22日  
 事業分類 : B : ソフト事業  
 新規事業  時限事業 (平成 年度迄)

実施根拠 (法令、条例等)  
酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律、家畜伝染病予防法

事業運営方法  直営  一部委託  全部委託  補助等  
 委託先  民間  三セク  NPO  学校  自治会・地縁団体  
 その他 ( )

## 事業概要

◆ 課題・目的 (どのような課題を解決するために実施した事業なのか)  
 南丹市内において家畜伝染病の発生を出来る限り防ぎ、また発生してもその伝染を防ぐ。南丹市内全域の畜産農家数、市内営農条件不利地域での畜産農家数の減少を出来る限り食い止め、南丹ブランドを守り、南丹ブランド畜産物出荷量を一層伸ばす。

◆ 活動内容 (具体的にどのような活動を行ったのか)  
 家畜伝染病の予防接種費の一部を補助した。家畜伝染病の予防の啓発活動を行った。高額集乳運賃と一般運賃の差額の一部を補助した。遠距離地域の往診料金の一部を補助した。

◆ 対 象 (この事業を実施するにあたり、ターゲットとした者(物)は何か)  
 畜産業を営む人、高額集乳運賃地域(日吉・美山)で酪農を営む人、遠距離地域(家畜診療所から25km以上の地)で畜産業を営む人

◆ 結 果 (この事業を実施したことにより、どのような効果または結果が得られたのか)  
 家畜伝染病の発生を出来る限り防いだ。また、畜産農家数の減少を出来る限り食い止め、南丹ブランド畜産物出荷量を一層伸ばした。

指 標		単位	18実績	19実績	20予算	21計画
活動指標	① 予防接種の件数					
	② 啓発回数					
	③ 日吉・美山地内の出荷乳量			精 査 途 中		
	④ 遠距離地域内の家畜数					
	⑤					
対象指標	① 畜産農家数					
	② 日吉・美山地内の酪農家数			精 査 途 中		
	③ 遠距離地域内の畜産農家数					
成果指標	① 家畜伝染病発生件数					
	② 町毎の畜産農家数			精 査 途 中		
	③					

市民や議会等からの要望・意見 (要望や意見の内容とその内容を確認した手段は何か)

## 近隣市町村や民間企業での同種事業の実施状況

亀岡市でも同様の支援をしている。但し補助率は違う。  
 京丹波町では町単独の畜産支援はなし。

決算(予算)額	(千円)	2,455	3,054	2,763	2,763	
財源内訳	使用料・手数料等	(千円)	0	0	0	0
	国・府支出金	(千円)	0	0	0	0
	地方債	(千円)	0	0	0	0
	一般財源	(千円)	2,455	3,054	2,763	2,763
職員従事時間	(人)		0.10			
人件費 ※	(千円)		666			
トータルコスト ※	(千円)		3,720			

※人件費は、職員の給与・諸手当で・共済などから、一定の基準に基づき算定したおおよその額です。  
 ※人件費およびトータルコストは、あくまでも参考値です。

【公共性の評価】

- (1) 行政の守備範囲 (民間や市以外の機関等が実施すべき事業ではなかったか)  
 法令等により定められた事業     市が実施すべき事業     行政内部の事業  
 民間等での実施は見込めない     民間等での実施も可能

説明: 伝染病の予防支援や市内の均衡な発展は市の支援が必要

- (2) 事業選定の妥当性 (事業の目的や意図が政策や施策の目指す方向にあっているか)  
 施策等の実現に向けた事業     施策等の方向とマッチしていない

説明: 伝染病予防や市内均衡な発展を支援する事業である

- (3) 対象の妥当性 (事業の本質から考えて的を得た対象を定めているか)  
 本質に沿った対象である     的を得た対象となっていない

説明: 地域ブランドの維持発展に必要である

【有効性の評価】

- (4) 課題解決への有効度 (目的の達成や、課題解決のために有効的な事業か)  
 かなり有効的     当初の予想どおり     予想しても有効的でなかった

説明: 指標的にほぼ想定どおり

- (5) 施策実現に対する有効度 (総合計画の施策実現に対して有効的な事業か)  
 かなり有効的     当初の予想どおり     想定よりも有効的でなかった

説明: 指標的にほぼ想定どおり

- (6) 成果向上の余地 (施策実現に向け更なる成果向上の余地はあるか)  
 大きい     小さい     無い

説明: 家畜伝染病発生については無くしたい

- (7) 類似事業との統合・再編・連携の余地 (他の類似事業と統合や連携ができないか)  
 統合や連携等の検討可能     統合や連携はできない     類似事業がない

説明: 類似事業は見つからない

新たに生じた課題・解決できなかった課題等

改革案 (いつ、どのような改革を、どのような手段で行うのか)

【緊急性の評価】

- (8) 課題解決への緊急度 (なぜ早期に実施しなければならなかったか)  
 法令等により期限がある     他事業よりも効果が大い     早期の取り組みが必要  
 他事業よりも優先度が高い     市民の生命・財産を守るため     緊急性は低い

説明: 地域ブランドの維持発展には緊急性が高い

【効率性の評価】

- (9) コスト削減の余地 (事業内容、職員労力、仕事の進め方などから)  
 削減の余地あり     削減の余地なし

説明: 多くても50%支援である。

- (10) 受益者負担の適正 (社会状況等から受益者の負担は適正か)  
 正当な受益者負担     見直す必要あり     負担を強いる事業ではない

説明: 多くても50%支援である。

【協働性の評価】

- (11) 市民との協働による事業実施 (協働による実施を検討したか)  
 協働事業には不向き     協働では実施していない     協働で行ったが主体は行政  
 協働で行ったが住民主体は一部     市民等が主体となって実施

説明: 伝染病予防や市内均衡な発展は市の責務である

- (12) 協働事業としての推進の余地 (今後、協働による推進できる余地はないか)  
 余地あり     余地なし

説明: 伝染病予防や市内均衡な発展は市の責務である

所 属 長 総 括 評 価

畜産物は栄養価が高く、バランスのとれた食生活に欠かせない食材であり、今後とも畜産農家支援は不可欠と考える。

※事務局使用欄

一次評価	継続 (現状維持)	畜産支援は必要だが、補助よりも畜産農家の収入が増える手法を検討・構築してもらいたい。
二次評価	継続 (現状維持)	法定伝染病の予防及び畜産物のブランド化推進を図るため重要な事業であり、当面事業の継続が必要。